

国語科学習指導案

令和元年10月8日火曜日
第2校時 3年A組40名
指導者 大渡 克教

- 1 単元名 コミュニケーションについて論じよう
～「国語に関する世論調査」にプラスワンの情報を加えて自分の意見を述べる～

2 単元設定の理由

<学習者について>

学習者は、1・2年時の国語科でスピーチの相互評価やプレゼンテーション等、日常生活や社会生活から話題を求め、報告、説明、発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりする活動を重ねてきている。そのため、4月に行われた「全国学力・学習状況調査」の「生徒質問紙調査」においては、「国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように根拠を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか」に肯定的回答の学習者が82.0%と、国語科の学習においては、内容や論の展開を意識できている学習者が多いと考えられる。しかし、同調査「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」に肯定的回答の学習者が67.3%にとどまっており、国語科で受けた指導が三割以上の学習者には十分に定着していないことが伺える。

<単元について>

本単元は、「平成28年度国語に関する世論調査」結果を読んで、「コミュニケーション」についての自らの考えを提案し、聞き手がその内容や表現の仕方を判断する言語活動を行いたい。「国語に関する世論調査」は、国語に関する意識や理解の現状について調査し、国民の国語に関する興味・関心を喚起することを目的とするもので、平成28年度は、「コミュニケーションの在り方・言葉遣いについて」「相手に配慮したコミュニケーション」等、コミュニケーションに関する意識調査が行われている。これを基に、自分たちのコミュニケーションについて考えることは、学習者の関心を一定程度以上喚起することと考えられる。

<指導・「問い」の工夫について>

言語活動については、少人数のグループで、一人の発表者がコミュニケーションに関する自分の意見をパワーポイント（以下「PP」とする）を使って述べ、その内容についての賛否や論の展開、活用された資料などについて話し合うこととする。意見については、国語に関する世論調査から得た情報を基にコミュニケーションについて考えたことを中心とするが、この際、課題に主体的に取り組ませるために、指導者から示された情報だけでなく、書籍、新聞、雑誌、ウェブ上の情報から自ら探してきた情報を加えることを条件とする。これを本単元の「問い」の工夫Ⅰと位置付ける。また、話し合いについては、聞き手が意見の内容や表現の仕方を判断することが中心となるが、それが適切なものとなっているのかという点について、客観的に判断する数名の評価者を設定したい。これにより、自分がよりよい聞き手たりえているかどうかを実感することにつながると考えている。これを「問い」の工夫Ⅱと位置付ける。

3 単元の目標

「国語に関する世論調査」結果概要を基にコミュニケーションについて考えたことを述べたり、その内容や表現の仕方を評価したりする活動を通して、聞き手を説得するための資料の活用や論理の展開を工夫することができる。

※参考 想定する指導事項について

- | | |
|---------------|--|
| 平成20年度指導要領の場合 | ・ [A 話すこと・聞くこと] (第2弾) イ 及びア ウ
・ [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] (イ(7)) |
| 平成29年度指導要領の場合 | ・ [知識及び技能] (2)情報の扱い方に関する事項 ア
・ [思考力、判断力、表現力] A話すこと・聞くこと ア イ エ |

4 単元の評価規準

- コミュニケーションに関する諸事象に関心をもち、そこから得た自分の意見について話し合う活動を通し、聞き手が納得できるように伝えたり、話し手の提案について根拠をもって評価したりしようとしている。 [国語への関心・意欲・態度]
- 自分の考えについて説得力を増すために、話し方や論理の展開を工夫したり資料などを活用したりして、コミュニケーションに関する意見を発表している。 [話す・聞く能力 一第2弾イ及び第3弾ア]
- 発表者の意見を聞いて、その内容についての賛否や論の展開、活用された資料などを評価し、自分のものの見方や考え方を深めたり、自分の話し方の参考にしたりしている。 [話す・聞く能力 一ウ]
- 社会生活における敬語の役割を理解して話している。 [言語についての知識・理解・技能—(イア)]

5 単元指導計画（本時5／7時間）

単元のめあて コミュニケーションについての意見発表を基に、その内容の賛否や論理の展開などについて話し合い、より良い話し手、聞き手になろう。

展開	時間	学習活動	指導上の留意点	評価
導入	1	○単元の目標、言語活動の内容を確認する	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の目標を確認する。 ・「国語に関する世論調査」結果概要の抜き刷りを読ませ、その際の気づきを共有する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 問いの工夫 I <ul style="list-style-type: none"> ・気づきから自分が論じたいことを考え、それを述べる際に必要となるプラスワンの情報を各自で探すことを伝える。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージ作りのために、指導者が作成した4枚のPPシートを示す。 	関・意・態
	2	○コミュニケーションについての提案の論の展開を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・以下の点を確認する。 (1)PPシートは3, 4枚, (2)発表は4, 5分程度 (3)プラスワンの情報を必ず位置付けること ※プラスワンの情報は、自分の考えの補強、根拠、具体的な事例、話題提示、と様々に使用してよいこと ・既習事項である、基本的な文章の構成や、論の展開について確認する。 ・ワークシートに提案の展開を記述させる。 	話・聞-ア (ワークシートの記述) ※C評価者への支援 話題と結論を明確にさせ、 班員からアドバイスさせる
	3	○PPシートを作成する	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のワークシートを基にPPシートを作成させる。 ・それぞれのシートを示すときに、何を話すのか、箇条書きにまとめさせる。 	同上
展開	4	○話し合いの際の発表者、聞き手、評価者の役割を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・以下のことを留意して話し合い活動を行うことを確認させる。 (1)発表者：場面に応じた言葉遣い、論理の展開の工夫、効果的な資料活用などについて留意する。 (2)聞き手：発表者の主張の根拠や自分の立場との違いを明確にする。論理的な展開などに留意して評価する。 (3)評価者：(1)(2)を適切に判断する役割であること 	話・聞-ア・ウ (ワークシートの記述)
	5・6 本時	○自分が考えるコミュニケーションについて述べ、それを基に話し合う	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 問いの工夫 II 評価者の視点から話し合いを客観的に判断し、より良い話し手、聞き手になるための視点を得る </div> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの際の役割を明確にし、そのとき自分が何について考えればよいのかを事前に把握させておく。 ・Ipadによる動画も撮影させるが、あくまで補助アイテムとする 	話・聞-ウ (観察・ワークシートの記述)
終末	7	○単元全体の振り返りを行う	<ul style="list-style-type: none"> ・導入時、展開時、それぞれで留意すべきこと、達成すべきことは何であったのか、それに対し、自分はどれだけ意識でき、達成できていたのかを分析させる。 	話・聞-ア・ウ 関・意・態 (ワークシートの記述)

6 本時の指導

- (1) 題材 コミュニケーションについて話し合い、より良い話し手、聞き手について考える。
- (2) ねらい 「国語に関する世論調査」結果概要と学習者自身で探したプラスワンの情報をもとに考えたコミュニケーションに関する意見を発表し、その内容や論理の展開を吟味する話し合い活動や話し合いを評価する活動を通して、各学習者が話し手、聞き手としての課題に気付かせる。
- (3) 本時における「問い」の工夫
話し合いについては、聞き手が意見の内容や表現の仕方を判断することを中心とし、それが適切なものとなっているのかという点について、客観的に判断する数名の評価者を設定する。
- (4) 展開

学習活動	時	指導及び指導上の留意点	期待される反応	評価・備考
1. 前時を振り返り、本時のめあてを確認する	1	○前時を簡潔に振り返らせ、本時のめあてを確認させる。		
めあて：コミュニケーションについての意見発表を基に、その内容の賛否や論理の展開などについて話し合い、より良い話し手、聞き手になるための視点をもとめ。				
2. 本時の活動と課題を確認する	4	○本時の活動は、意見の発表とその内容や論理の展開を吟味する話し合い活動や話し合いを評価する活動ということを確認させる。		
課題：発表者や聞き手の優れている点や、今後、気を付けなければならないことほどのような点か				
3. コミュニケーションに関する話し合いを行い、気付きを全体で交流する	3 5	○前時までに確認していた、発表者及び聞き手の留意事項を確認させる。 ○各グループで、発表4分以内→質疑、意見交流5分以内→評価2分以内という順で話し合う。 ・発表者1名、聞き手4名、評価者3名 ・これを2回行う ・グループでの話し合い終了後、評価者からのコメントをもとに、自分の良かった点や足りなかった点について発言させる。 ・各自で「よりよい話し手、聞き手になるための視点」をまとめる	問いの工夫Ⅱ 聞き手の判断が適切なものとなっているのかという点について、客観的に判断する数名の評価者を設定。そのコメントをもとにまとめ、振り返りをさせる	話・聞-ウ (観察・ワークシートの記述)
まとめ：評価者からの指摘から、〇〇の点が自分にとっては伸ばすべき点であると分かった！				
4. 本時の振り返りを行う	1 0	○本時の活動で自分が特に意識した点や、自他への評価者からのコメントをもとに振り返りを行わせる。		話・聞-ウ (ワークシートの記述)
振り返り：本時の活動で自分が特に意識した点や、評価者からの自他へのコメントをもとに本時の成果や今後の課題について、記述しよう				
予想される振り返り A 活動に臨む際、自分が意識していたことと評価者からのコメントと同じ点や違う点、他者が指摘されたことから気付いた点について言及し、次の活動への展望を記述している。 B 本時の活動で自分が特に意識した点についてできたこととできなかったこと、評価者からの評価について言及し、次の活動への展望を記述している。 C 上記以外の内容				

(5) 板書計画

〈側面〉大型ディスプレイ

留意事項: 評価者の評価のポイント

発表者

A 経験や知識を再構成して自分の考えを形成している
 B プラスワンの情報を効果的に用いている
 C 目的や場面に応じた言葉遣い、聞き取りやすい語句を選んでいる
 D 論理的で分かりやすい話の構成や展開を工夫している
 E 資料の見やすさや提示の仕方を工夫している

聞き手

a 意見の根拠を確かめて判断している
 a 発表者と自分の考えや立場との違いを聞き分けている
 b 話の意義や価値を考えて自分の意思決定に役立っている
 b プラスワンの情報がどのような役割を果たしているのか理解している
 c 発表者の語句や文の使い方、声の出し方や言葉遣いを意識している
 d 話の構成や論理的な展開について具体的に述べている
 e 資料や機器の活用の仕方を述べている
 独 発表者の優れている点を自らの表現に生かそうとしている

〈正面〉ホワイトボード兼用スクリーン

振り返り 本時の活動で自分が特に意識した点や、評価者からの自他へのコメントをもちに本時の成果や今後の課題について、記述しよう

まとめ 評価者からのコメントをもちに、自分の良かった点や足りなかった点を考える

課題 発表者や聞き手の優れている点や、今後、気を付けなければならないことなどのような点か

めあて コミュニケーションについての意見発表を基に、その内容の賛否や論理の展開などについて話し合い、より良い話し手、聞き手になるための視点をもちよう

聞き手であつた場合、「一言気を付けたいこと」

- 発表者の話の論理的な構成や展開について具体的に述べられるようにしたい
- 発表者の意見の根拠が何かを明確に判断したい

発表者であつた場合、一言気を付けたいこと

- プラスワンの情報を効果的に用い、論理的な構成になるよう気を付けたい
- 見やすい資料の提示を意識したい

コミュニケーションについて論じよう
 「国語に関する世論調査」にプラスワンの情報を加えて自分の意見を述べる」

(6) 学習観察の視点

- ・ プラスワンの情報を設定することが、主体的な学びにつながっているか
- ・ 話し合いを客観的にとらえる評価者の設定が、学習者の学びを深めるのに有効であったか

教室配置

H B 兼用スクリーン

